シマフクロウの森から共生の大地へ環境が「農・林・漁」を繋ぐ

早稲田環境塾 塾長 原 剛 (写真&資料の出典:「虹別コロカムイの会」より)



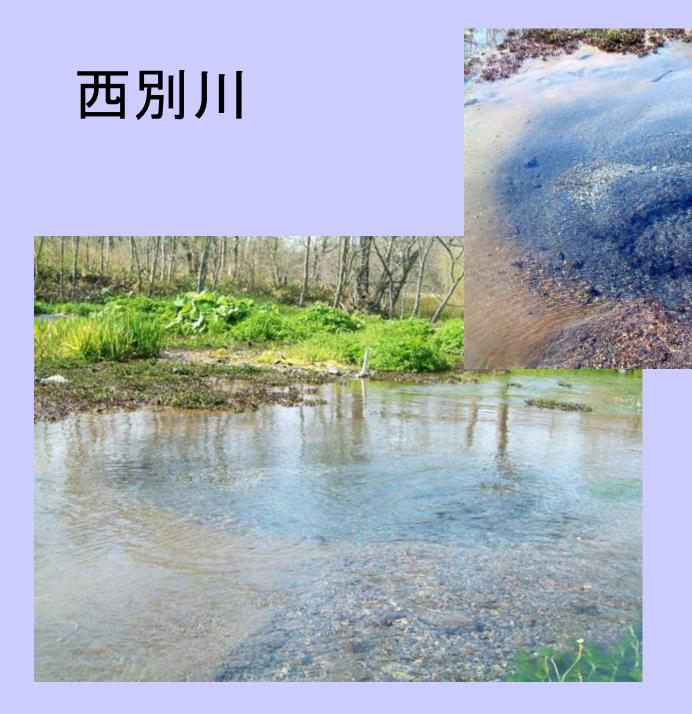


アイヌの神聖なる山、カムイ岳



摩周湖





養魚場 日本発・最大のサケ孵化場



シマフクロウ

成鳥の体長は約70cm、体重は約4kg、羽を広げると1.8mにもおよび、短く低い声で「ボー・ボー・ボー」と鳴き、大きな音をたてて飛ぶ世界でも最大級のフクロウである。

その容貌から「森の哲学者」と呼ば れ、アイヌ民族からは「コタン コロ カムイ」(コタン:村 コロ:守る カム イ:神)としてあがめられていた。主 に生きているサケ科の魚やネズミ類 の小動物などを餌とし、体長が大き いため、営巣は河畔林にある広葉 樹の大木の樹洞などをすみかとして いる。かつては、北海道全的に全域 にすんでいたシマフクロウは今や北 海道の一部にしか生息しておらず、 その数も100羽と極めて少なく、絶 滅危惧類IA型にも指定され環境省 でも保護に努めている。





養魚場 大橋勝彦 事務局長



ドナルドソン系ニジマス

森の大移動

~シマフクロウの森づくり百年事 業植樹祭のはじまり~





釧路新聞 平成 6年6月29日所載

まず環境づくり ナラの木大移動

虹別コロカムイの会が初年度の事業



シマフクロウは「国また



シマフクロウを数

シマフクロウの森づくり百年事業植樹祭







全国の仲間の支援

第16回シマフクロウの森づくり100年事業植樹祭

-苗木寄付者-(敬称略)

(財)三菱UFJ環境財団

(社)根室管内さけ・ます増殖事業協会 須貝 文昭、近藤(東京)、島影建設 星野 伸一、標茶町緑化推進委員会 虹別コロカムイの会

-苗木樹種-

ミズナラ・ハルニレ・ドロノキ・ヤチダモ・イタヤカエデ シラカバ・ヤナギ・ケヤマハンノキ H 21.5.17

合計3,000本

主催 虹別コロカムイの会 後援 摩周水系西別川流域連絡協議会。摩周水環境保全実行委員会 弟子屈町。標茶町。別海町。根室南部鮭定置連絡協議会

巣箱 雪の前に巣箱を清掃 高さ7mの木の枝に登る舘会長





虹別コロカムイの会



会長 舘定宣 平成6年(1994年)設立

活動



巣箱の設置・メンテナンス

バンディング



西別川流域の自治体の動き

別海町/標茶町 「川を考える月間」の指定

弟子屈町

摩周湖を世界遺産登録へ



西別川のバイカモ

バイカモ(梅花藻)

湧水源や冷たい清流に群生するキンポウゲ科の常緑の沈水植物で、春から秋にかけて白い花を繰り返し咲かせる。 水質汚染などには敏感で群生する川は清流の象徴とされる。





シマフクロウの森づくり百年事業植樹祭

